



先代経営者に聞いた スムーズな事業承継の ポイントとは？

POINT/01

引き継いでいただくという気持ち

引き継いでいただく方を探すときに大事にしたのは、引き継いでいただく、やっていただくという気持ちです。後継者であった息子を亡くし、後継者がいなくなってしまうという現実を受け入れたことで、そのような気持ちが生まれたのだと思います。事業を譲るのは寂しいかとも思いますが、快く譲る決心も重要かと思えます。

POINT/02

価値観が一致する人へ譲渡すること

私が大切にしてきたのは、大きさよりもお客様にしっかりとサービスが行き届くこと。大きなホテルが多い鬼怒川温泉で、規模の小ささを逆手にとって独自性を生み出してきました。菊池さんも、旅館のこぢんまりとした規模を気に入ってくれていて、この旅館で商売をやりたいという熱意が伝わってきましたので、菊池さんへの事業承継を決意しました。

POINT/03

早い決断が大切

相談した商工会議所や金融機関の方がおっしゃられたのは、決断は早いほうが良いということ。足を痛め、思うように仕事ができなくなっていたので、決断を先延ばしにしても費用がかかるだけ。会社の価値も下がってしまうため早めに動いたほうが良いということでした。もちろん、良い後継者の方が見つかることが一番重要ですが、少しでも早いタイミングで事業を譲ることを決断することも大事だと思います。



秋になると、旅館から美しい紅葉が見られます。

Close-up

事業承継された今の気持ちは？

宮崎：寂しい気持ちもありますが、高齢でするので考えても仕方がないですし、納得のできる人に継いでいただけたという気持ちの方が大切だと切り替えています。今は足を悪くしていますが地域の体操教室に出かけたり、以前お店でやっていた手相鑑定も再開してみようと考えています。

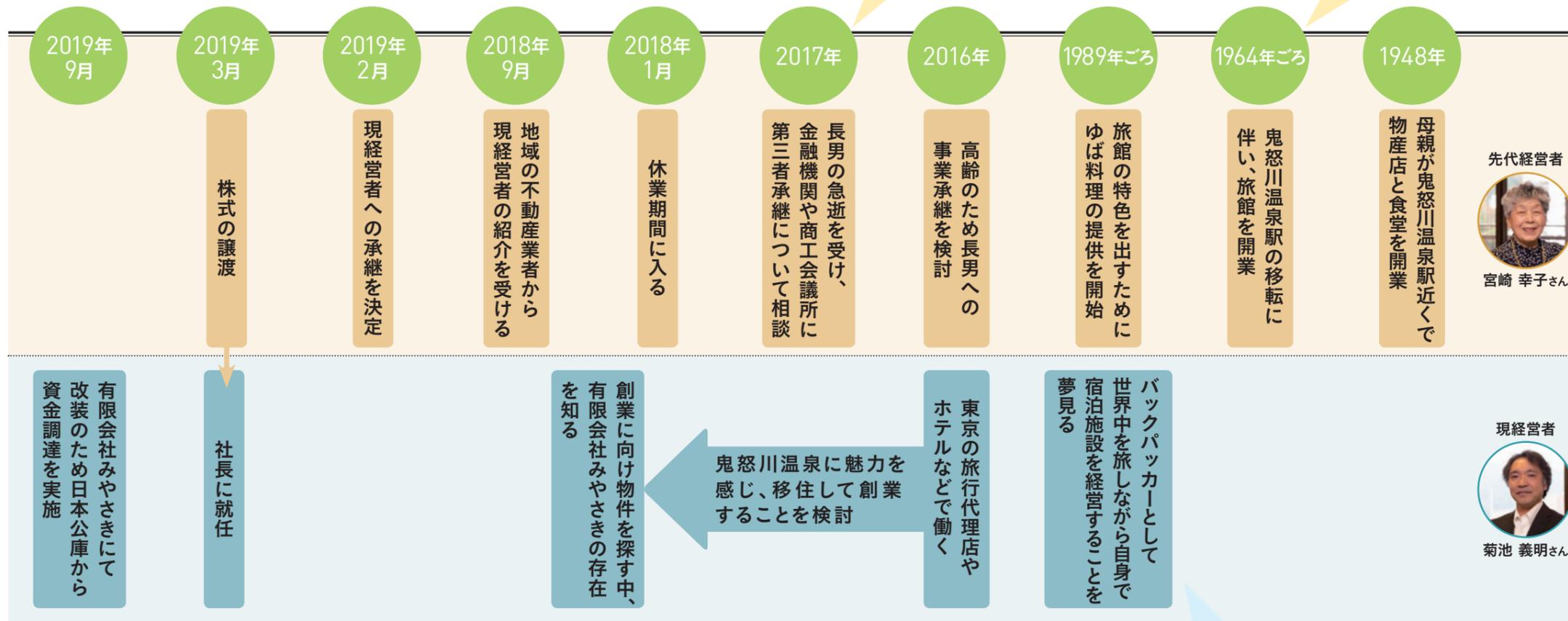


第三者への事業承継に どのように取り組みましたか？

宮崎：後継者であった息子が亡くなってしまい辛かったのですが、なんとか事業を残したいと商工会議所や地域の金融機関をはじめ、色々なところに相談をしました。金融機関の方は、地域の不動産屋さんなどにも声をかけてくださって、みなさん後継者候補を探すことに協力してくださいました。その結果、何名か事業を引き継ぎたいとおっしゃってくださる方が見つかったんです。

旅館を始められた当時のことを 教えてください。

宮崎：創業当初は旧鬼怒川温泉駅前で物産店と食堂を母と二人でやっていたのですが、駅の移転に伴い客足も遠のいたため、旅館業を始めました。当時の鬼怒川温泉は団体客が多く、個人で来られるお客さんが泊まりづらいということもあり、そういった方々を対象にしていました。この規模で、川沿いに建っている旅館はうちだけでしたので、こぢんまりとしながらも質の良い温泉宿として、多くのお客様に喜んでいただけました。



Close-up

今後の取組みについて教えてください。

菊池：もともとゆばを特長として営んできた旅館ですので、まずは強みであったゆばをしっかり引き継いでおかみさんの期待を裏切らないようにしたいと思います。一方で、今後力を入れたいのは、外国人の家族連れや若い人が2、3人で気軽に泊まることのできる宿づくりです。ドミトリー（相部屋）を利用する旅行者にとって、川沿いで季節も楽しめて、温泉もついている宿は少ないと思いますので、それを売りにして、多くのお客様にご利用いただきたいですね。



「器にもこだわるとより 美味しそうに見えるんですよ」と宮崎さんは語ります。

事業承継されるまでの経歴は？

菊池：学生時代からバックパックの旅をしており、働き始めてからも、お金を貯めては旅に出るということをしていました。40カ国以上の渡航歴があります。今でこそ日本にもドミトリー（相部屋）の宿が増えていますが、海外を旅していた当時から、気軽に泊まれて日本らしいおもてなしが受けられる宿があれば喜ばれるのにと、思っていたんです。自分で旅館を経営できないかと考え始めていました。

